

こころの便り

第230号

令和元年5月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話 0791-75-1212

根がある

新しい御代が始まりました。あなたにとって「令和」はどんな時代になっていくのでしょうか。百二十六代目の天皇陛下が即位されて、これまであたりまえに使ってきた西暦との違いを初めて知った人も多いのではないのでしょうか。我が国の歴史は西洋の暦とされるキリストの生誕よりも長いのです。

皇紀二千六百七十九年の歴史を持ち、今回の元号は二百四十八番目となります。元号の変更は御代替りに限らず、自然災害などの不吉なことが起きた時に、より良い世の中という願いを込めて変わってきたという歴史があります。このことから見ても、日本は「祈りの国」であると思えます。

便利になった現代では、言葉に出さないと伝わらないと言われますが、「祈り」は言葉ではありません。私達の先人たちは言葉にしなくても伝わることを大切にしてきたのではないかと私は感じています。たとえば、八百万の神々という存在を大切に、神社のご神木や磐座を祈りの対象として、常に感謝する存在として大切にしてきました。そして、このたび引き継がれた三種の神器は、天皇の証として神話につながる歴史を伝えてきた我が国の歴史そのものといえます。

天皇という歴史を知って、凄いなあと感じられたと思いますが、実は私たち一人ひとりにも同じように先祖が存在して、名前はわからなくても根がつながってきたからこそ、今、自分がこうして生きているのです。男系という天皇家の条件は、縦の糸として命の歴史を伝えてきました。私にもつながっているたくさんの先祖が存在することを思うと、今の自分を卑下したり、できないことを悔やんだりする前に、自分にできることをひとつずつ数えて、元氣に前を向く力を出すことで、多くの先祖の知恵が出てくるように思えるのです。

現実起きてくることは、決していいことばかりではありません。ほとんどが悪いことで、良いことなど無いに等しいと思われる人もあるでしょう。しかし、悪いことだけで世の中が回るわけではありません。

善いことを願い、できることを実行することで、自分の周りから必ず良くなっていく「氣」が発せられるようになります。言葉ではない「氣」を、美しく和らぐもの「令和」へと広げていきましょう。元号は変わりました。

やるかやらないか、決めるのは自分です。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第二十課 禮儀

我等が世間の人と共々に生活するには、知つてゐる人にも知らない人にも禮儀を守ることが大切です。禮儀を守らないと、人に不快の念を起させ、また自分の品位をおとすこととなります。

人の前には、頭髮や手足を清潔にし、着物のきかたにも氣をつけて、身なりをととのへなければ失禮です。人と食事をする時には、音を立てたり、食器をらんざつにしたりしないで、行儀をよくして、愉快な心持でたべるやうにしなければなりません。又、室の出はいりには、戸・障子のあけたてを靜かにするものです。

汽車・汽船・電車などに乗つた時には、互に氣をつけて、人に迷惑をかけないやうにすることが必要です。自分だけ席を廣くとつたり、不行儀ななりをしたり、いやしい言葉づかひをしたりしてはなりません。集會場・停車場其の他、人がこみあつて順番を守らなければならぬ場所、人をおしのけて、われさきにと行つてはなりません。又人の顔かたちやなりふりを笑ひ、悪口を言ふのはよくないことです。

外國人に對して禮儀に氣をつけ、親切にするのは、文明國の人の美風です。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。